

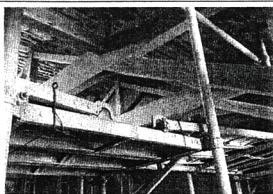
既存RCCと木造を融合

木造設計アドバイザー制度で進行

熊本県立高森高校

熊本県立高森高校（阿蘇郡）の教室棟など改築工事が、県産材杉、桧一般流通材を主に活用して進められている。従来からあるRCC造の建築物を生かしながら、新築される同構造の木質内装化施設、また木造の教室棟などを融合させた計画が特徴だ。11月の完成を予定している。

木造部分は教室棟と音楽室などで、在来軸組平屋建てとし、地元RCC造の建築物によって建築されている。一般流



建築中の教室棟、県産材一般流通材の組み合わせに架構を用いた

通材を組み合わせた架（高森阿蘇神社の神木を親木とする押し木構）による軽快さとも、力強さを表現する。に、力強さを表現する。ため方杖付きラーメン材で杉100立方、桧15立方、一部に杉大断面構造用集成材8立方、造作材は杉50立方、桧10立方、杉集成材5立方、フローリングには桧ムク材を使った。また、玄関部分には阿蘇地域の銘柄材ナンゴウヒ

（高森阿蘇神社の神木を親木とする押し木構）の内装壁板も採用した。解体した校舎からの廃木材をリサイクルした木材・プラスチック再生木材（エコウッド）もデッキ、縦ルーバーなどに使う。今回の地域材供給は阿蘇森林組合が担った。熊本県では、同県建築住宅センターと共同で、県内の自治体が発注する木造建築の設計などに対し、専門性の高いアドバイザーを派遣する木造設計アドバイザー制度を創設して

いる。

同物件はこの対象になり、坂田雅孝ウッドイファーム社長がサポートした。これにより設計の各段階で発注者側と設計者側の検討項

目や決定事項を全体的に整理、把握し、適切な時期に方針決定と円滑なプロジェクト運営が進められた。

現在まで梅雨や阿蘇山からの降灰などがあつたものの、工期は順調に推移している。設計・監理は太安設計事務所。施工は橋本・アスクJV。15日には熊本県主催の現地見学会が行われた。